

## 2011年3月期第二四半期 事業の業績（連結）

---

# 2011年3月期第二四半期 連結業績

(単位：百万円)

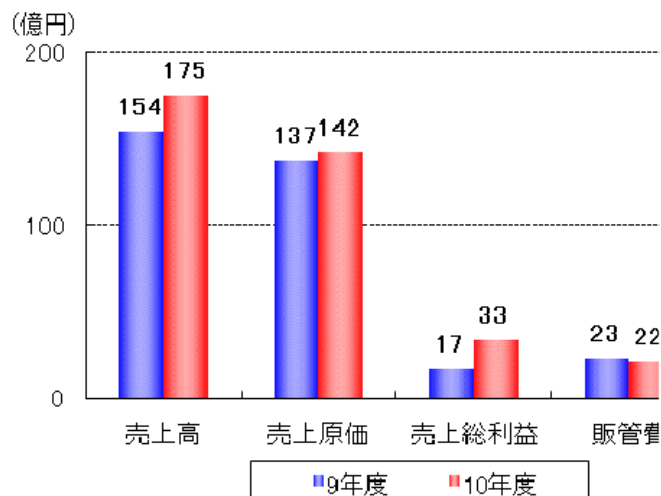
損益	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	前年同期比
売上高	15,362	17,494	114%
売上原価	13,708	14,159	103%
売上総利益	1,653	3,335	202%
販管費	2,260	2,154	95%
営業利益	△ 607	1,180	-
経常利益	△ 892	695	-
純利益	△ 912	346	-
1株当たり 純利益(円)	△ 20.26	7.70	-

# 業績の特徴

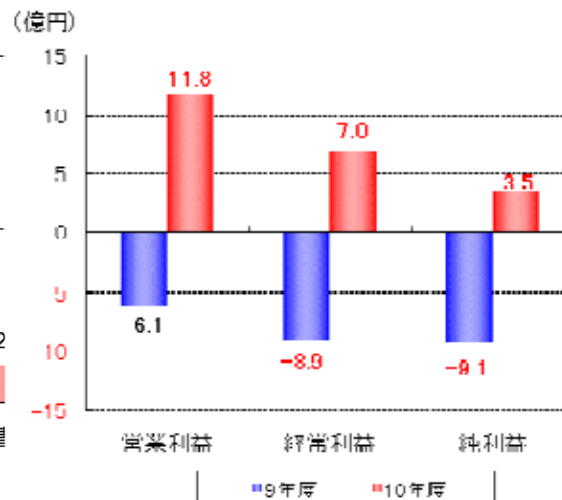
## 特徴

- リーマンショックからの回復が鮮明となり、売上高は3年振りに増収となり、前年同期比+14%となりました。また、営業利益率についても、赤字から+6.7%へと大きく改善することが出来ました。
- リチウムイオン電池の正極材料を始めとする新商品の拡販や徹底したコストの削減、稼働率の向上により、売上原価率を対前年8.3ポイント改善させるとともに、販管費も対前年5%低減させる事ができました。
- 以上の結果、営業利益は11億80百万円、経常利益は6億95百万円、純利益は3億46百万円となりました。今期に入ってから急激な円高の進行による為替差損が発生したにも拘わらず、前年の赤字成績から黒字転換を図ることができました。

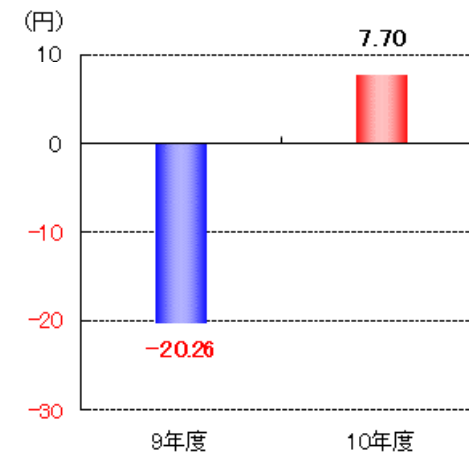
## 売上高、販管費等



## 利益



## 一株当り純利益



# セグメント別売上高

(単位：百万円)

セグメント	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	前年同期比	包含事業
機能性顔料事業	5,630	6,927	123%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、 ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材事業	5,826	8,016	138%	電池材料、電磁環境部品/材料、 磁石/磁石材料、電子印刷部品、 半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング 事業	3,905	2,550	65%	環境エンジニアリング、 土壌浄化用触媒 など
合計	15,362	17,494	114%	

1. 機能性顔料事業は、リーマンショックから販売が回復するとともに新製品の展開も加わり、対前年+23%の大幅な増収となりました。
2. 電子素材事業は、電池材料の急回復を始めとした販売の回復を受けて、対前年+38%の大幅増収となりました。
3. エンジニアリング事業は、引き続き設備投資の低迷により、対前年 35%の減収となりました。

# 2011年3月期第二四半期 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	増減
流動資産	19,341	23,514	4,173
固定資産	33,040	32,453	△ 587
流動負債	20,253	21,090	837
固定負債	12,175	13,187	1,012
少数株主持分	380	379	△ 1
株主資本	20,149	22,217	2,068
総資産	52,381	55,968	3,587
現金/同等物	3,851	6,763	2,912
キャッシュフロー	△ 3,116	180	3,296
ROE (%)	△ 9.1	3.1	12.2

(注)ROEは株主資本合計に対して計算したものです。(年換算)

## 貸借対照表科目の特徴

1. 前年度下期から回復した純利益の黒字化により、株主資本が前年同期より + 20億6,800万円増加し、自己資本比率が0.7ポイント改善して38.1%となりました。
2. 流動資産は前年同期より + 41億7,300万円増加しています。売上の回復に伴う売上債権の増加、現預金等の増加が主な内訳です。
3. 固定資産は、設備投資も行いましたが、利益拡大に伴う繰延税金資産の取崩しが主要因となり前年同期より 5億8,710万円減少しています。
4. 負債は流動と固定の合計で18億4,900万円増加しています。設備投資等への資金の借入を増やした事が主たる要因です。
5. 現金/同等物残高は、前年同期と比べて + 29億1,200万円増やしており、キャッシュフローにおいても + 32億9,600万円増加しています。
6. 純利益の黒字化で、年換算のROEは + 3.1%となりました。

# 主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	
富士化水工業株式会社	3,962	2,595	102	△ 208	12月末
戸田マテリアル株式会社	817	3,450	△ 92	185	3月末
戸田ピグメント株式会社	743	681	58	8	3月末
東京色材工業株式会社	583	1,098	74	236	3月末
戸田工業ヨーロッパ GmbH	355	476	35	6	3月末
戸田塑磁材料(浙江)有限公司	276	566	22	71	12月末

## 【増収増益】

1. 東京色材工業(株)は、顔料の業容拡大が進んでおり大幅な増収増益となっています。
2. 戸田マテリアル(株)は、自動車向け銘柄の本格的な立上げにより、売上は大幅な増収となり、経常利益も黒字転換致しました。
3. 戸田塑磁材料(浙江)有限公司は、中国国内の堅調な需要に支えられて増収増益基調を継続しています。

## 【減収減益】

1. 戸田ピグメント(株)は、円高による低価格帯での海外勢攻勢もあり苦戦しました。
2. 戸田工業ヨーロッパ GmbHは、電池材中心に売上をのばしています。
3. 富士化水工業(株)は、景気回復傾向のなか民間設備投資の動きは鈍く、売上が伸び悩んだ事に加え、工事の採算も悪化しており、大幅な減収となり遺憾ながら経常赤字となりました。

# 設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	前年同期比
設備投資	1,269	1,370	108%
研究開発	733	807	110%
減価償却	1,092	1,128	103%

1. 設備投資の主な内容は、リチウムイオン電池材料の増産設備です。今後の需要動向を踏まえ、タイムリーな設備投資を継続してゆきます。
2. 研究開発費は、開発のタイミングを逃さぬよう、対前年+10%程度増やしています。新規事業の開発に重点配分します。
3. 減価償却費は、前期までの投資設備の稼働開始で、対前年+3%の増加となっています。